

令和2年度 第1回佐久市環境審議会次第

日 時：令和3年3月18日（木）

午前10時30分から

場 所：佐久市役所 南棟 3階会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告 事 項

（1）緑の環境調査について

（2）特定外来生物（植物）分布調査について

（3）2050年ゼロカーボン実現に向けた今後の取り組みについて

（4）その他

4 閉 会

令和2年度緑の環境調査「佐久市生きものさがし」について

1 目的

- 身近な生きものの調査を通し、市の自然環境の状態を探るとともに、環境保全に対する意識の高揚を図る。

2 調査方法

- 身近な生きものの「種類」、「場所・環境」、「発見日」、「数・特徴」「気づいたこと・感想」について、ハガキ、電話、メール、ファックスで報告してもらう。
- 生態系の変化は地球温暖化問題とも関わりが深いことから、学校や家庭における地球温暖化防止活動を推進するために「わが家のエコ課長」に委嘱している市内の小学4年生には学校を通じ協力を依頼した。



市内小学校、図書館等に配布
(右は図書館での告知スペース)

3 調査結果

報告件数 1, 333件 (内訳: 一般341件、小学生992件)

(1) 調査対象種

- ①フクロウ類 15件、②オオムラサキ 20件、③サクラソウ 12件
- ④バッタ類 107件、イナゴ科 21件

(2) 調査対象種以外

- 昆虫類: 562件
- 植物類: 136件
- 魚類・両生類・爬虫類: 125件
- 鳥類: 227件
- ほ乳類: 28件
- その他: 80件

- 調査対象種については、全種について報告があった。また、調査対象種以外についても多種多数の報告があり、佐久市では一定の生物多様性は保たれていると考えられる。
- 詳細な結果については、後日市ホームページで公開する。

4 参加者の感想より (個人情報保護等のため一部変更、省略)

- 僕の家庭だけでもいっぱいいてびっくりした。今度は家庭だけでなくいろんなところで生きものをさがしてみたいです。
- 私は、あまり生物が好きじゃないけど、この生きもの探しをしたり観察したりして、あまり好きじゃない生きものを触ったりして、少し生きものが好きになりました。花などは好きですが、あまり種類などを知らなかったけど観察をして、図鑑で調べて、あまり知らない花などもちゃんと知ることができました。もっと学校などにある木や花、生きものを見つけたら、色々な物で特徴などを調べてみたいと思います。私が一番びっくりしたのは、バッタなどにも色々な色があるということです。
- 虫が(以前より)少なくなってきていて、悲しい。以前オオムラサキが生息していた場所にとりに行ったが、いなくて残念だった。

→「新たな発見があった」「生きものが好きになった」というような意見が多く、環境保全に対する意識を持ってもらう動機付けには一定の成果があったと考えられる。その一方で、種によっては「以前より数が減った気がする」「前に見られた場所で見られなくなった」というような意見も数件寄せられた。

●調査報告より

(1) 調査対象種



オオムラサキ (茂田井)



サクラソウ (旧美笹自然観察園)



キリギリス (東立科)

(2) 調査対象種以外



セイタカシギ (杉の木貯水池)



ニホントカゲ (平尾山)



オモダカ (さくらさく小径付近の水田)

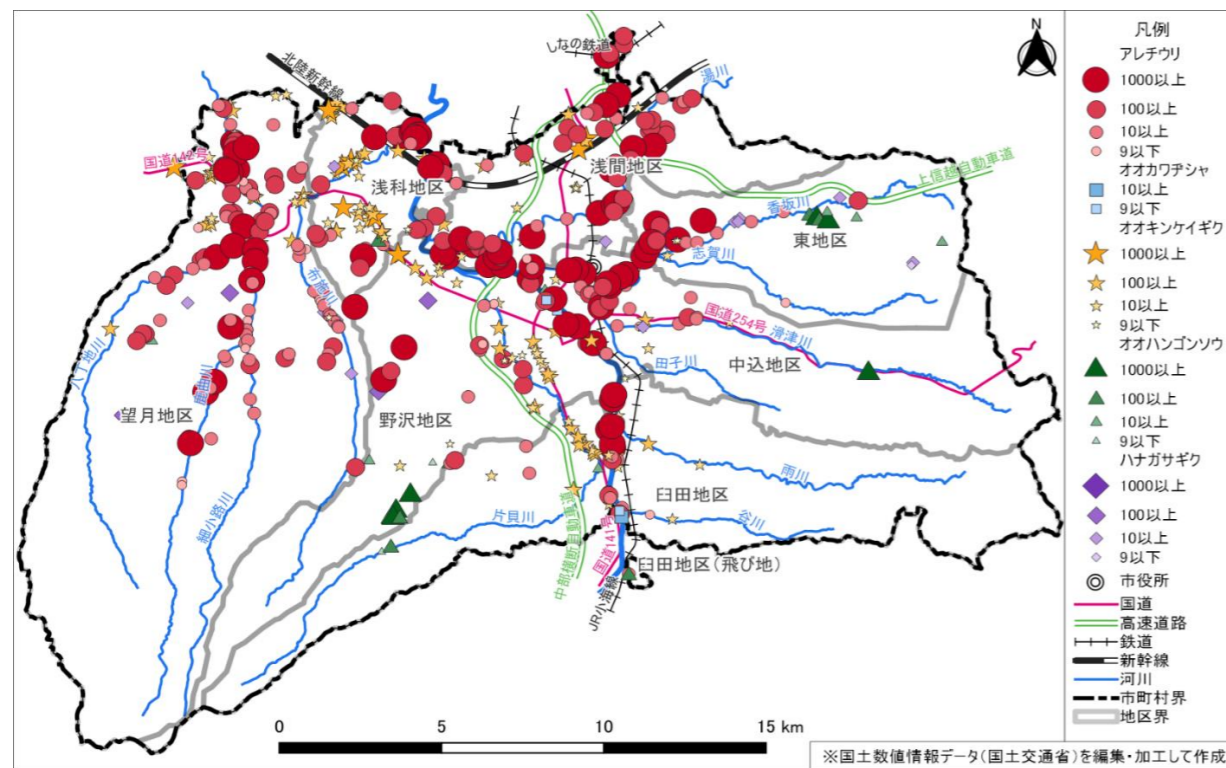
佐久市内の特定外来生物（植物）の分布状況について

■分布状況

佐久市内にはアレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウの4種の生育が確認され、アゾラクリスタータ、オオフサモは確認されなかった。

科名	種名	確認地点数
ウリ	アレチウリ	304
ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ	4
キク科	オオキンケイギク	149
	オオハンゴンソウ (ハナガサギク含む)	48

4種の確認地点



■アレチウリ

主に市街地の西側地域に多く分布し、東側地域には少なく、東側や南西側の山地には分布していない。生育環境は河川沿いが多く、河川敷や堤防法面、それらに隣接する林縁部などに連続的に分布している場所が多い。河川敷では、令和元年の増水で浸食され地形が変化した箇所があり、そのような箇所では平成26年度に比べ個体数の減少がみられた。



河川敷から路傍まで侵出している



樹木を覆っている

■オオカワヂシャ

千曲川本川の4地点で確認した。千曲川上流の佐久穂町境から国道141号線浅蓼大橋下流にかけて点在し、各地点での個体数は少なかった。佐久穂町境での確認地点では在来種のカワヂシャと混在しており、交雑や生育環境の競合が懸念される。



水際部の傾斜が緩やかで泥が溜まっているような環境で確認された



■オオキンケイギク

浅科地区から望月地区の国道142号線と、白田地区の国道141号線沿いに点々とみられる。幹線道路沿い以外には路傍や庭先等に点在しており、植栽されている場所も見られた。



道路沿いに広く分布し、道路外にも広がる



庭先に植栽されていた

■オオハンゴンソウ(ハナガサギク)

河川敷や林縁、放棄地や庭先等で見られる。香坂ダム付近や白田地区の林道周辺で特に広く群生していた。千曲川では、さくらさく小径公園付近の河川敷に生育が確認された。ハナガサギクの確認は、ほとんどが庭先や耕作地の脇などに植栽されたものであり、市内に広く点在していた。



山地に広く分布している



植栽されているハナガサギク

2050年ゼロカーボン実現に向けた今後の取り組みについて

1. 佐久市気候非常事態宣言を行った背景

近年、我が国を含め世界各地で記録的な大雨や干ばつなどの異常気象が頻発しており、それらの異常気象は地球温暖化が進むことに伴い増加していくと考えられています。

また、地球温暖化の原因は人間活動による温室効果ガスの増加である可能性が極めて高いと言われており、温室効果ガス排出量の削減は世界的に喫緊の課題であるとされています。

本市においても、近年最高気温の更新などが目立つとともに昨年10月に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風のような気象災害が今後増加すると予測されているなど、本市の災害の少なさ、乾燥冷涼な気候といった本市の魅力が脅かされています。

また、佐久市議会令和2年第3回定例会において、将来の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す行動を官民一体となって推進していくため、気候非常事態宣言を市議会とともにを行い、あらゆる対策を講じるように市に求める決議が令和2年9月25日付で行われました。

以上のことから、市民一人ひとりにこの気候の危機を「自分のこと」として認識してもらい、市民・行政が一体となり、温室効果ガスの排出削減に向けた対策を講じるために気候非常事態宣言を行いました。

2. 佐久市気候非常事態宣言

別紙「佐久市非常事態宣言」のとおり

3. 取組の基本的な方針について

当市では、宣言を具現化するため、次のことに取り組みます。

- (1)省エネルギー化の推進
- (2)再生可能エネルギーの利用促進
- (3)まちの低炭素化の推進
- (4)災害に強いまちづくり(気候変動適応策の推進)
- (5)3Rの推進(発生抑制:リデュース、再使用:リユース、再生利用:リサイクル)
- (6)COOL CHOICE等の周知による地球温暖化対策に関する意識啓発
- (7)県等との連携

4. 具体的な施策について

(1)省エネルギー化の推進

ア 家庭の省エネルギー化の促進

取り組みやすく効果的な省エネルギー対策に関する情報の提供や省エネ講座などを開催するとともにLED照明等の高効率機器の設置・購入を促進する。

イ 事業所の省エネルギー化の促進

取り組みやすく効果的な省エネルギー対策に関する情報の提供やセミナーを開催し、省エネルギー行動を啓発し、習慣化とともに設備の適切な運転管理と保守点検の実施を促進する。

ウ 公共施設の省エネルギー化の推進

市役所をはじめとする公共施設においては、「佐久市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」に基づき、市の事務事業に係る省エネルギー対策を推進する。 など

(2)再生可能エネルギーの利用促進

ア 再生可能エネルギーの適切な導入の促進

太陽光・木質バイオマス・水力・地中熱などの再生可能エネルギーについて、自然環境や生活環境の影響に配慮した適切な導入を促進するとともに再生可能エネルギーの活用に関する情報提供を行う。

イ 信州屋根ソーラーポテンシャルマップの周知・活用

日照時間が全国トップクラスである強みを活かし、建物ごとに太陽光発電・太陽熱利用のポテンシャルが閲覧できる県が作成した「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」の周知・活用を図る。

ウ 公共施設における再生可能エネルギーの導入

公共施設における再生可能エネルギーの導入に努める。 など

(3)まちの低炭素化の推進

ア 省エネルギーに配慮した建物・設備への転換の促進

戸建住宅や集合住宅、ビルの新築・増改築時には、省エネルギーに配慮できるよう、情報提供を行う。

イ 環境負荷の少ない交通システムへの転換の推進

電気自動車等の次世代自動車の普及を図る。 など

(4)災害に強いまちづくり(気候変動適応策の推進)

ア 自然災害対策の推進

豪雨などによる被害軽減に向け、市内の水害対策や土砂災害対策を進めるとともに佐久市防災マップの周知など、市民の防災意識の高揚を図る。

イ ヒートアイランド対策の推進

地表面や屋上・壁面の緑化、透水性舗装などにより、ヒートアイランド現象の緩和に向けた取組を推進する。

ウ 電気自動車及び定置型蓄電池の普及促進

停電発生時にも蓄えた電力により、家電等を使用可能とする電気自動車や定置型蓄電池を普及促進する。 など

(5)3Rの推進(発生抑制:リデュース、再使用:リユース、再生利用:リサイクル)

ア ごみの発生抑制に向けた普及・啓発

市広報紙や市ホームページなどを活用して、マイバッグの持参によるレジ袋の削減等ごみの発生抑制のための情報提供を行うとともに、資源循環に配慮した事業活動やグリーン購入の重要性などについての普及・啓発活動を行うことや、グリーンコンシューマーの育成などを図る。

イ 分別排出、収集の徹底

可燃ごみや埋立ごみに混入されている資源物を徹底して削減するため、ごみの分け方や出し方について必要な情報をわかりやすく市民・事業者提供し、分別排出の徹底を図る。

ウ 資源化推進のための仕組みづくり

分別排出・収集の徹底、不要となったものを再使用、再生利用するための仕組みづくりを行うとともに、引き続き集団資源回収運動に取り組み、資源として分別排出されたごみの効率的な再資源化を行う。 など

(6)COOL CHOICE(賢い選択)等の周知による地球温暖化対策に関する意識啓発

ア COOL CHOICE(賢い選択)等の周知による意識啓発

市広報紙、佐久ケーブルテレビ、FMさくだいら等により、効率機器の設置・購入やエコドライブの推進などのCOOL CHOICE(賢い選択)の例を紹介するとともに地球温暖化対策の必要性を認識してもらう。

イ わが家のエコ課長事業

市内等の小学4年生全員を「わが家のエコ課長」に委嘱し、地球温暖化や省エネに関する知識を深めてもらうとともに、年間を通して学校の友達や家族、地域の方々へ「COOL CHOICE」(賢い選択)を呼びかけてもらい、地球温暖化防止対策の普及啓発を図る。 など

(7)県等との連携

ア 県との連携

県が「気候非常事態宣言(2050ゼロカーボンへの決意)」の理念を具現化するために策定した「長野県危機突破方針」のもと持続可能な社会を目指す取組を推進する。

イ 他団体等との連携

他の団体・地域と連携を図りながら温室効果ガスの削減を目指す。 など